

市立御前崎総合病院
公的医療機関等 2025 プラン

平成 29 年 10 月策定

目 次

市立御前崎総合病院の基本情報	1
1. 現状と課題	
① 中東遠医療圏の現状と課題	2
② 御前崎市の現状と課題	6
③ 市立御前崎総合病院の現状	11
④ 市立御前崎総合病院の課題	17
2. 今後の方針	
① 地域において今後担うべき役割	19
② 今後持つべき病床機能	20
3. 具体的な計画	
① 4機能ごとの病床のあり方について	21
② 診療科の見直しについて	21
③ その他の数値目標について	21

【市立御前崎総合病院の基本情報】

医療機関名：市立御前崎総合病院

開設主体：御前崎市

許可病床数：199床

(病床の種別) 一般病床145床・療養病床54床

稼働病床数：188床

(病床の種別) 一般病床134床・療養病床54床

(病床機能別) 急性期74床・回復期60床・慢性期54床

診療科目：内科・リウマチ科・小児科・外科・整形外科・脳神経外科・産婦人科・
形成外科・眼科・耳鼻咽喉科・泌尿器科・皮膚科・リハビリテーション
科・放射線科・麻酔科

付帯事業：診療所 御前崎市家庭医療センター しろわクリニック

(平成29年11月開院予定)

施設サービス 老人保健施設 (定員50人)

在宅サービス 通所リハビリテーション (定員45人)・訪問看護ステーション・訪問リハビリテーション・短期入所療養介護・居宅介護支援事業所

職員数：

	正規職員	非常勤職員	合計
医師	12	52	64
技師	73	1	74
看護師	124	29	153
事務員	30	7	37
看護助手	7	6	13
介護員	52	9	61
合計	298	104	402

(平成29年4月1日現在)

【1. 現状と課題】

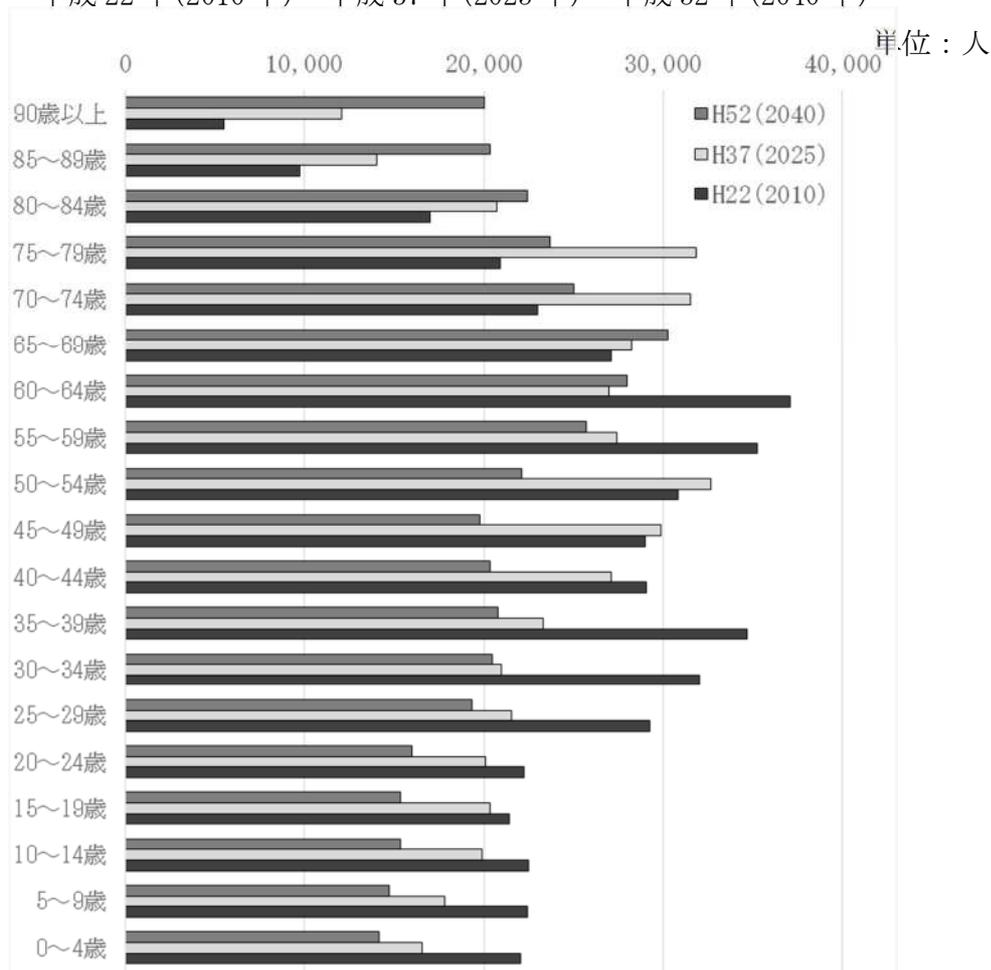
① 中東遠医療圏の現状と課題

ア 中東遠医療圏の人口動態と高齢化の予測

中東遠医療圏の人口は、今後減少が続くと予想されています。年齢区分別に人口推移を見ると、年少人口(14歳以下)や生産年齢人口(15～64歳)は平成52年(2040年)まで減少が続く一方、65～69歳及び80歳以上では右肩上がりに人口が増加すると見込まれます。また、70～74歳及び75～79歳では平成37年(2025年)をピークに減少に転じていることも特徴的です。

◆将来人口推移

平成22年(2010年)・平成37年(2025年)・平成52年(2040年)¹



単位: 人

	平成22年(2010年)	平成37年(2025年)	平成52年(2040年)
人口推移	471,010	442,880	393,809
増加率	100.0%	94.0%	83.6%
うち、65歳以上人口	103,263	138,396	141,783
増加率	100.0%	134.0%	137.3%
うち、80歳以上人口	32,263	46,817	62,838
増加率	100.0%	145.1%	194.8%
高齢化率	21.9%	31.2%	36.0%

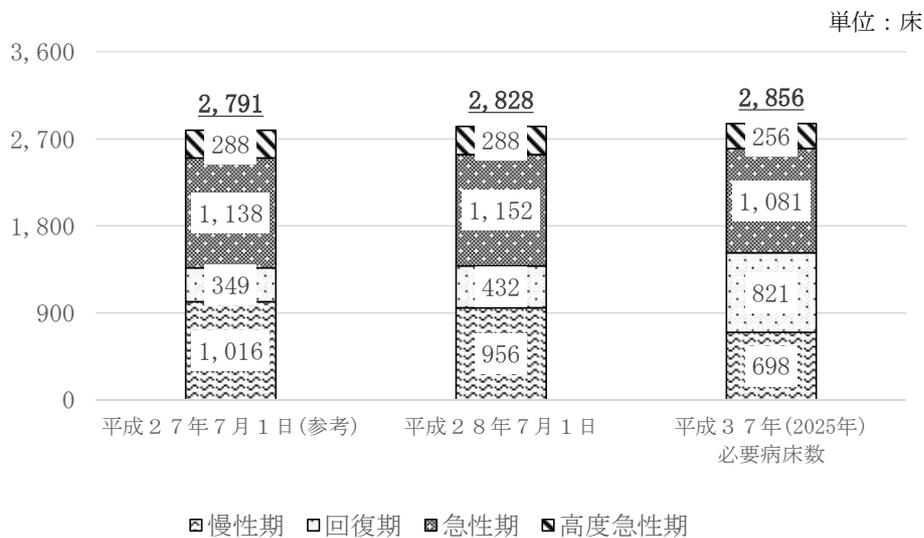
¹ 国立社会保障・人口問題研究所「日本の市区町村別将来推計人口」(平成25年推計)より引用

イ 中東遠医療圏の医療施設等の動向

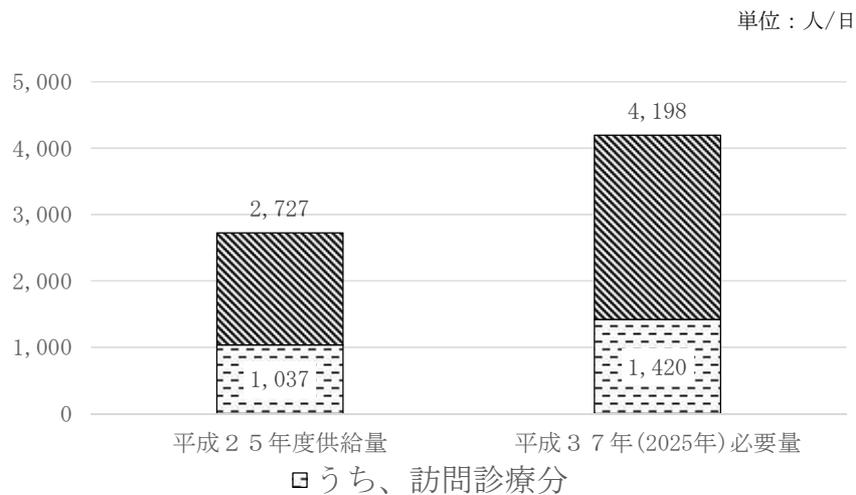
病床機能報告制度に基づく、中東遠医療圏における各医療機関の病床数の報告によると、平成 37 年(2025 年)に必要なとされる中東遠医療圏における病床機能別病床数は、全部で 2,856 床であり、平成 28 年に報告されている稼働病床数は 2,828 床となっています。病床機能ごとの内訳をみると、「高度急性期機能」は 32 床、「急性期機能」は 71 床、「慢性期機能」は 258 床それぞれ減床する一方、「回復期機能」は 389 床の増床が必要と示されています。

また、在宅医療等の必要量は 4,198 人うち訪問診療分は 1,420 人と推計され、現状より 1.5 倍程度増加すると見込まれています。

◆病床機能報告結果と平成 37 年(2025 年)必要病床数の比較^{2,3}



◆平成 37 年(2025 年)に見込まれる在宅医療の必要量⁴



² 静岡県「静岡県地域医療構想(平成 28 年 3 月)」より作成

³ 静岡県「平成 27 年度病床機能報告制度」より作成

⁴ 静岡県「静岡県地域医療構想(平成 28 年 3 月)」より作成

ウ 中東遠医療圏における医療機関の機能別病床数

近隣公立病院の機能別病床数をみると、回復期については、地域包括ケア病棟を公立森町病院・菊川市立総合病院、回復期リハビリ病棟を当院・公立森町病院・菊川市立総合病院が設置しています。また、慢性期は当院のみが設置しています。

◆主な病院の機能別病床数

		H2810現在 単位：床					
		高度急性期	急性期	回復期		慢性期	計
				包括ケア	回復期リハ		
主 な 病 院	市立御前崎総合病院	0	72	0	48	54	174
	公立森町病院	0	45	48	38	0	131
	菊川市立総合病院	0	118	44	40	0	202
	中東遠総合医療センター	260	234	0	0	0	494
	磐田市立総合病院	28	470	0	0	0	498
	その他の病院	0	88	233		902	1223
	病 院 計	288	1,027	451		956	2,722
有床診療所計		0	81	25		0	106
H28年 稼働病床数の計		288	1,108	476		956	2,828
H37年(2025年) 必要病床数		高度急性期	急性期	回復期	慢性期	計	
		256	1,081	821	698	2,856	
H37必要病床数 － H28稼働病床数		高度急性期	急性期	回復期	慢性期	計	
		△ 32	△ 27	+ 345	△ 258	+ 28	
※H28許可病床数 3,104床							
H37年(2025年) 御前崎市の必要病床数		13	79	60	51	203	

エ 中東遠医療圏における近隣公立病院の疾患構成

近隣公立病院の入院患者を、DPC主要診断群(MDC)分類別に、各病院の入院患者数を比較すると、当院における主要疾患は、消化器系疾患(22%)、呼吸器系疾患(19%)、筋骨格系疾患(17%)であるのに対し、その他4病院においても消化器系疾患が主要疾患となっており、構成疾患が近似していると言えます。一方で、最も近くに位置するB病院の主要疾患は、消化器系疾患(27%)の他に、循環器系疾患(14%)、外傷・熱傷・中毒(14%)と、一部、当院と異なる疾患への対応もみられることから、相互に役割を明確化し、機能分担を進めていくことが必要と考えられます。

◆近隣公立病院別の DPC 主要診断群 (MDC) 分類別の疾患構成 (平成 27 年度)

MDCコード	当院	A病院	B病院	C病院	D病院
症例件数(件/月)	64	86	214	916	793
01 神経系	5%	11%	3%	8%	6%
02 眼科系	0%	0%	0%	0%	0%
03 耳鼻咽喉科	2%	2%	1%	4%	2%
04 呼吸器系	19%	22%	11%	14%	19%
05 循環器系	5%	8%	14%	17%	7%
06 消化器系	22%	27%	27%	14%	23%
07 筋骨格系	17%	3%	7%	4%	3%
08 皮膚・皮下組織	3%	3%	2%	1%	2%
09 乳房の疾患	1%	0%	1%	0%	1%
10 内分泌・代謝	6%	6%	4%	4%	2%
11 腎・尿路系	7%	5%	6%	8%	7%
12 女性生殖系	0%	0%	5%	4%	8%
13 血液・免疫	2%	2%	1%	2%	3%
14 新生児疾患	0%	0%	1%	2%	3%
15 小児疾患	1%	2%	1%	2%	2%
16 外傷・熱傷・中毒	4%	8%	14%	10%	10%
17 精神疾患	0%	0%	0%	0%	0%
18 その他	5%	2%	2%	2%	1%

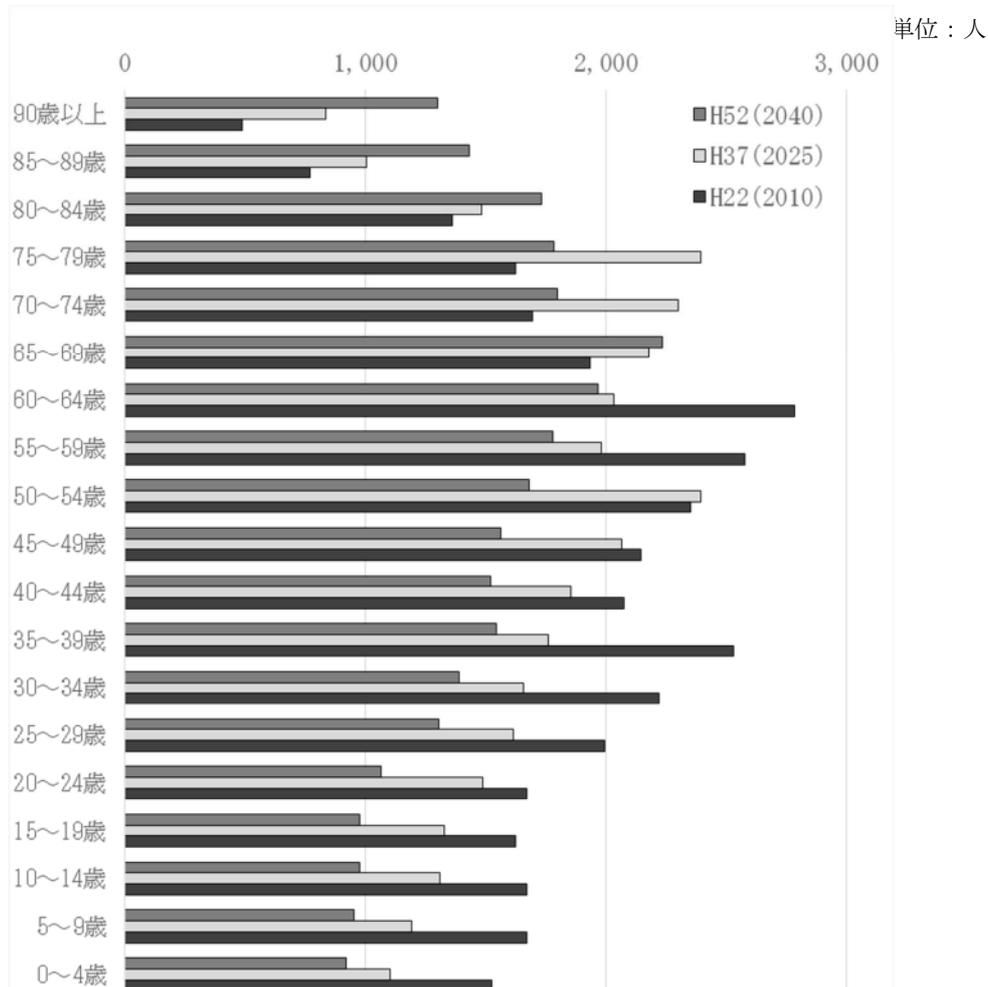
② 御前崎市の現状と課題

ア 御前崎市における人口動態と高齢化の予測

御前崎市の人口動態も、中東遠医療圏と同様の傾向であり、今後人口減少が続くと予想されています。年齢区分別に人口推移をみると、年少人口(14歳以下)や生産年齢人口(15～64歳)は平成52年(2040年)まで減少が続く一方、65～69歳及び80歳以上では右肩上がりに人口が増加すると見込まれます。また、70～74歳及び75～79歳では平成37年(2025年)をピークに減少することが見込まれています。

◆将来人口推移

平成22年(2010年)・平成37年(2025年)・平成52年(2040年)⁵



	平成22年(2010年)	平成37年(2025年)	平成52年(2040年)
人口推移	34,700	31,956	27,901
増加率	100.0%	92.1%	80.4%
うち、65歳以上人口	7,871	10,182	10,272
増加率	100.0%	129.4%	130.5%
うち、80歳以上人口	2,616	3,318	4,457
増加率	100.0%	126.8%	170.4%
高齢化率	22.7%	31.9%	36.8%

単位：人

⁵ 国立社会保障・人口問題研究所「日本の市区町村別将来推計人口」(平成25年推計)より引用

イ 御前崎市民の受療動向

御前崎市における疾患別年齢別(65歳～74歳・75歳～84歳・85歳以上)の将来入院患者数を見ると、平成37年(2025年)には、患者数は273名と推定され、各年齢層ともに患者数が増加することが予測されます。特に、今後増加することが見込まれる疾患としては、「IX循環器系の疾患」、「XIX損傷、中毒及びその他の外因の影響」、「X呼吸器系の疾患」及び「II新生物」が挙げられます。

◆疾患コード一覧表

コード	疾患名等
I	感染症及び寄生虫症
II	新生物
III	血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害
IV	内分泌、栄養及び代謝疾患
V	精神及び行動の障害
VI	神経系の疾患
VII	眼及び付属器の疾患
VIII	耳及び乳様突起の疾患
IX	循環器系の疾患
X	呼吸器系の疾患
X I	消化器系の疾患
X II	皮膚及び皮下組織の疾患
X III	筋骨格系及び結合組織の疾患
X IV	腎尿路生殖器系の疾患
X V	妊娠、分娩及び産じょく
X VI	周産期に発生した病態
X VII	先天奇形、変形及び染色体異常
X VIII	症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの
X IX	損傷、中毒及びその他の外因の影響
X X I	健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用

◆疾患別年齢別の将来入院患者数

単位：人

	2010年				2025年			
	総数	65～74	75～84	85歳以上	総数	65～74	75～84	85歳以上
総数	223.5	38.9	71.1	62.7	272.9	48.0	92.4	91.7
I	4.1	0.7	1.6	1.8	5.7	0.9	2.1	2.7
II	32.6	8.8	9.4	4.1	37.9	10.9	12.5	6.2
III	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
IV	7.2	1.6	2.8	1.9	8.9	1.9	3.5	2.7
V	4.7	0.9	0.8	0.5	4.9	1.1	1.0	0.7
VI	17.2	2.3	5.3	3.5	19.7	2.8	6.8	5.1
VII	1.7	0.8	0.9	-	2.0	0.9	1.1	-
VIII	0.0	0.0	0.0	-	0.0	0.0	0.0	-
IX	63.2	9.5	21.4	22.9	80.5	11.8	27.7	33.4
X	16.1	2.4	5.6	7.1	21.9	3.0	7.6	10.6
X I	13.0	2.4	3.7	3.0	15.6	3.0	4.9	4.4
X II	3.8	0.0	1.9	1.0	4.6	0.0	2.5	1.4
X III	12.9	2.4	4.7	4.0	16.1	2.9	6.0	5.8
X IV	9.2	2.4	2.8	3.0	11.7	3.0	3.6	4.5
X V	4.5	-	-	-	3.5	-	-	-
X VI	1.9	-	-	-	1.4	-	-	-
X VII	0.0	0.0	-	-	0.0	0.0	-	-
X VIII	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
X IX	30.5	4.7	10.2	9.9	37.8	5.8	13.1	14.2
X X I	0.9	0.0	0.0	0.0	0.7	0.0	0.0	0.0

国保データ及び後期高齢者データから、御前崎市民が、どの地域の医療機関に入院しているのか調査しました。その結果、御前崎市民は 44.0%が当院へ入院しており、56.0%は市外の医療機関へ入院していることがわかりました。特に流出している地域は、菊川市・掛川市・浜松市・牧之原市となっています。

◆御前崎市民の地域別入院患者数（平成 27 年 6 月実績）

医療圏	医療機関 所在地	患者数 (人)	構成比 (%)			入院単価 (円)
				国 保	後期高齢者	
中東遠	御前崎市	72.4	44.0	23.4	53.2	28,939
	菊川市	25.3	15.3	19.3	13.6	46,407
	掛川市	15.3	9.3	12.6	7.8	63,448
	袋井市	2.0	1.2	0.0	1.8	17,679
	磐田市	6.7	4.1	5.9	3.2	35,344
志太榛原	牧之原市	11.0	6.7	4.5	7.7	29,755
	島田市	2.3	1.4	3.4	0.5	86,583
	藤枝市	5.1	3.1	4.1	2.6	24,543
	榛原郡	5.7	3.5	0.0	5.0	13,109
	焼津市	2.0	1.2	2.0	0.9	26,724
西 部	浜松市	12.6	7.6	18.7	2.7	50,633
静 岡	静岡市	4.3	2.6	6.1	1.0	81,449
総 数		164.7	100.0	100.0	100.0	38,130

また、近隣公立病院を対象に、入院実績を調査しました。御前崎市民で近隣公立病院へ入院している患者は 119.7 人で、そのうちの 72.4 人、60.5%が当院に入院していることがわかりました。

◆御前崎市民の近隣公立病院別入院患者数（平成 27 年 6 月実績）

病 院 名	合 計		国 保		後期高齢者	
	患者数 (人)	入院単価 (円)	患者数 (人)	入院単価 (円)	患者数 (人)	入院単価 (円)
市立御前崎総合病院	72.4	28,939	11.9	32,903	60.5	28,162
菊川市立総合病院	25.3	46,407	9.8	42,064	15.5	49,153
中東遠総合医療センター	11.0	81,294	4.4	110,545	6.6	61,645
榛原総合病院	11.0	29,755	2.3	39,882	8.7	27,078
総 数	119.7	37,530	28.4	48,749	91.3	34,041

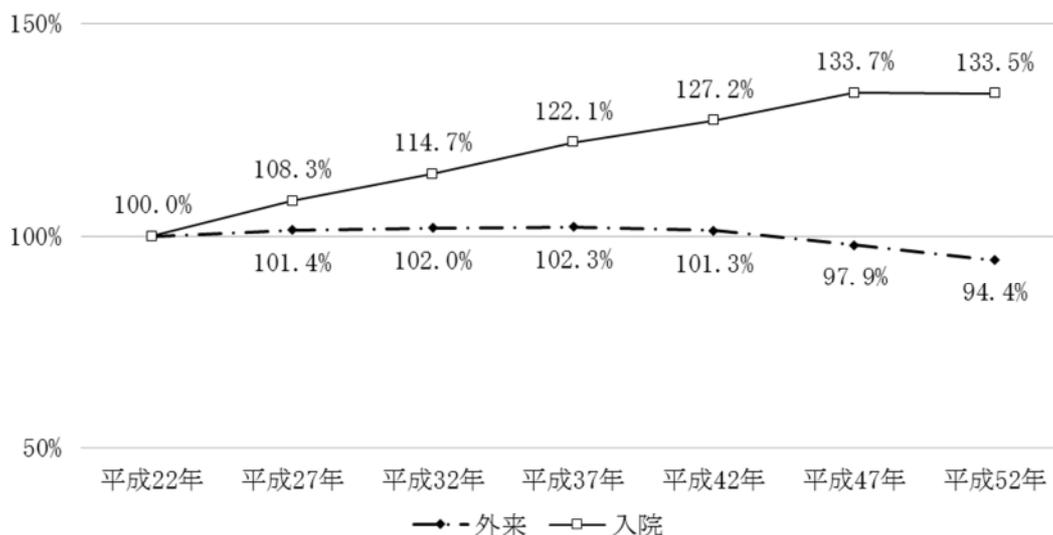
◆御前崎市民の医療機関別入院患者数（平成 27 年 6 月実績）

所在地	病院名	患者数（人）	単価（円）
御前崎市	市立御前崎総合病院	72.4	28,939
菊川市	菊川市立総合病院	25.3	46,407
掛川市	中東遠総合医療センター	11.0	81,294
	A病院	3.0	17,782
	B病院	1.3	16,154
袋井市	袋井市立聖隷袋井市民病院	1.0	23,190
	C病院	1.0	12,168
磐田市	磐田市立総合病院	3.3	51,756
	D病院	2.0	18,161
	E病院	1.0	15,697
	F病院	0.4	34,935
牧之原市	榛原総合病院	11.0	29,755
島田市	市立島田市民病院	2.3	86,583
藤枝市	藤枝市立総合病院	2.8	29,806
	G病院	1.3	24,879
	H病院	1.0	9,033
榛原郡	I病院	5.7	13,109
焼津市	焼津市立総合病院	0.3	53,763
	J病院	0.7	28,167
	K病院	1.0	16,797
浜松市	浜松医科大学医学部附属病院	4.0	43,936
	聖隷浜松病院	1.7	70,924
	浜松赤十字病院	1.5	93,805
	聖隷三方原病院	1.0	24,405
	浜松医療センター	0.5	140,045
	国立病院機構天竜病院	0.4	24,252
	J A 静岡厚生連遠州病院	0.2	42,672
	浜松労災病院	0.1	59,907
	L病院	1.1	26,273
	M病院	1.0	12,167
	N病院	0.5	38,903
	O病院	0.5	37,910
P病院	0.1	43,185	
静岡市	静岡市立静岡病院	1.3	195,592
	静岡県立総合病院	1.1	47,976
	J A 静岡厚生連静岡厚生病院	0.7	29,783
	国立病院機構静岡てんかん・神経医療センター	0.2	35,214
	Q病院	1.0	25,055
	入院患者 合計	164.7	38,130

ウ 平成 37 年(2025 年)における医療・介護需要予測

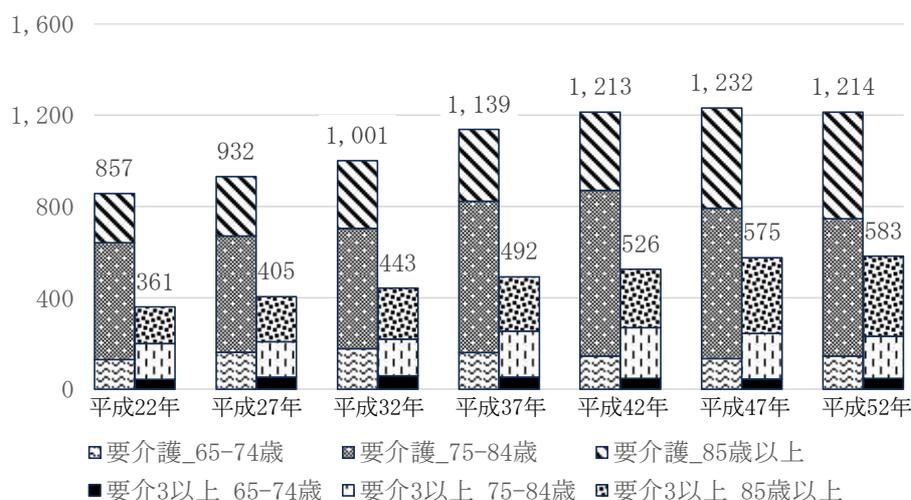
医療需要については、御前崎市における人口推移及び年齢別の疾病受療率を踏まえ、将来推計患者数を入院・外来別に試算しています。入院患者数は、平成 47 年(2035 年)まで約 30%増加した後に横ばいとなっています。外来患者数は、緩やかな増加傾向が見られ、平成 37 年以降減少すると見込まれます。

◆御前崎市における平成 22 年 100 対比推計患者数割合⁶



介護需要については、御前崎市人口に対する要介護度認定者数の割合から、将来推計要介護認定者数を試算しています。全体の要介護認定者数は、平成 22 年(2010 年)から増加し続けた後に、平成 47 年(2035 年)をピークに減少に転じています。ただし、介護依存の高い要介護度 3 以上の認定者数については、平成 52 年(2040 年)まで増加傾向にあり、中重度の要介護者を対象としたニーズの増大が見込まれます。

◆御前崎市における要介護認定者数将来推計⁷



⁶ 「国立社会保障・人口問題研究所平成 25 年推計」及び「総務省統計局平成 23 年患者調査」より試算

⁷ 厚生労働省 「介護保険事業状況報告(暫定)」及び国立社会保障・人口問題研究所 「日本の市区町村別将来推計人口」(平成 25 年推計)より試算

エ 御前崎市内の診療所

市内の診療所は、平成 26 年度に新設した御前崎市診療所等開設資金支援事業補助金制度によって、平成 27 年度から 4 件の新規開業がありました。その内の 2 件は、当院の勤務医によるものでした。

◆市内の診療所

診療所の名称	地 区	備 考
阿部医院	池新田	
阿部クリニック	池新田	
外科胃腸科奥村医院	塩原新田	
小野澤医院	佐倉	
くわはた整形外科	池新田	
座光寺医院	白羽	
【休止】(社福)賛育会 東海診療所	池新田	H28. 6月
永尾内科・循環器科医院	御前崎	
宮内診療所	宮内	
【閉院】丸尾内科医院	池新田	H28. 3月

◆診療所開設資金支援事業補助金により開院

おまえざき痛みみのクリニック	池新田	H27. 7月	当院医師
池新田クリニック	池新田	H28. 4月	市内開業医の分院
あんぬ医院	池新田	H28. 4月	静岡市から
むぎ運動場前クリニック	池新田	H28. 9月	当院医師 2 名

◆開設準備中

予定 (仮称) 御前崎市家庭医療センター	白羽	H29. 秋頃
----------------------	----	---------

③ 市立御前崎総合病院の現状

《基本理念》

私たちは、地域住民に対し思いやりのある暖かな医療と信頼される質の高い医療を提供し、保健と福祉の増進に尽くします。

《基本方針》

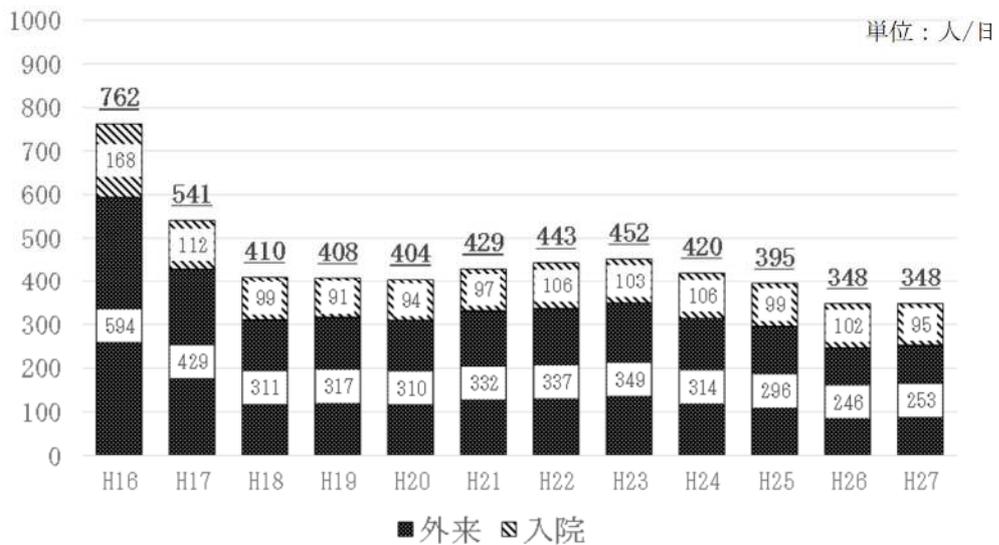
1. 患者の権利を尊重し、インフォームドコンセント（説明と同意）に基づいた、安心と満足される医療を提供します。
2. 高度で良質な医療を提供するため、自己研鑽に努めます。
3. 病院内の各部門が相互に協力し、質の高い医療を提供します。
4. 高齢者医療、救急医療の充実に努めます。
5. 地域の医療・保健機関との連携を図り、住民の健康増進に努めます。

ア 医師数と患者数の推移

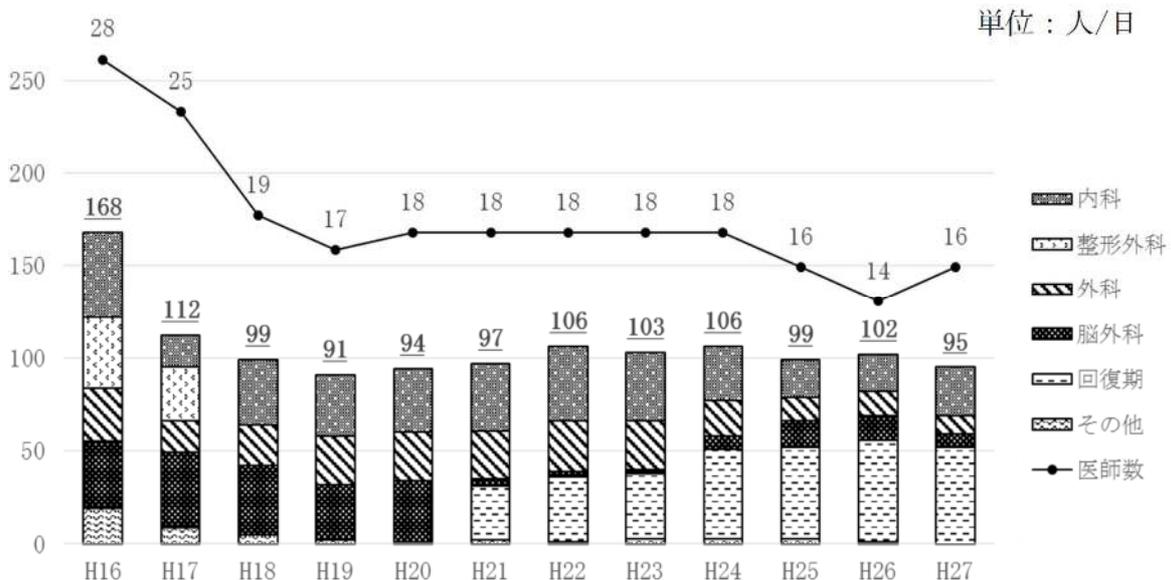
当院の常勤医師数は、平成 16 年度の 28 人から減少し、平成 27 年度には約 4 割減少の 16 人体制となっており、患者数も約 5 割強の減少となっています。

診療科別の入院患者数をみると、平成 17 年度末に整形外科の入院が休止し、平成 20 年度末には脳神経外科の入院が休止となったため、病棟機能を回復期リハビリに移行しました。

◆入院・外来患者数の推移（平成 16 年度～27 年度）



◆入院患者数の診療科別推移（平成 16 年度～27 年度）



イ 病棟の機能分化・再編成

当院は、地域の医療ニーズに対応して、急性期・回復期・慢性期の病床機能明確化と連携強化のため、病棟機能を時代とともに再編成し、病床数も段階的に 302 床から 199 床へ減床しました。

◆病棟の機能分化・再編成

20年4月	21年4月	22年4月	23年4月	24年4月	25年4月	26年4月	27年4月	28年4月
302床	292床	289床	254床	199床				
急性期 159床	急性期 106床	急性期 107床	急性期 107床	(閉鎖)33床	急性期60床 (閉鎖)25床	急性期60床 (閉鎖)25床	急性期72床 (閉鎖)13床	急性期72床 (閉鎖)13床
	(閉鎖) 94床	(閉鎖) 90床						
(閉鎖) 89床	回復期リハ38床		回復期リハ 60床				回復期 48床 (閉鎖)12床	
介護療養54床				医療療養54床				
老人保健施設 50人								

ウ 診療機能と役割

急性期と回復期や慢性期の異なった病棟機能を持つ病院のことをケアミックス病院と呼んでいます。更に、予防医療、365日の救急体制や外来の化学療法・透析診療などの機能を持ち、老人保健施設、訪問看護などの在宅療養機能をも併せ持ち、包括的な医療・介護を継続的に提供している当院のような体制をスーパーケアミックス病院といいます。

急性期医療を必要とする患者については、手厚い看護配置の一般病棟において対応し、高度で専門的な治療を必要とする疾患については、近隣医療機関との医療連携により対応しています。急性期の治療を終えた患者には、リハビリを集中的に行う回復期リハビリ病棟、長期の療養を行う療養病棟、また、要介護の方を受け入れる老人保健施設を併設しています。その他、在宅療養を支援する医療・介護サービスの提供も行っています。



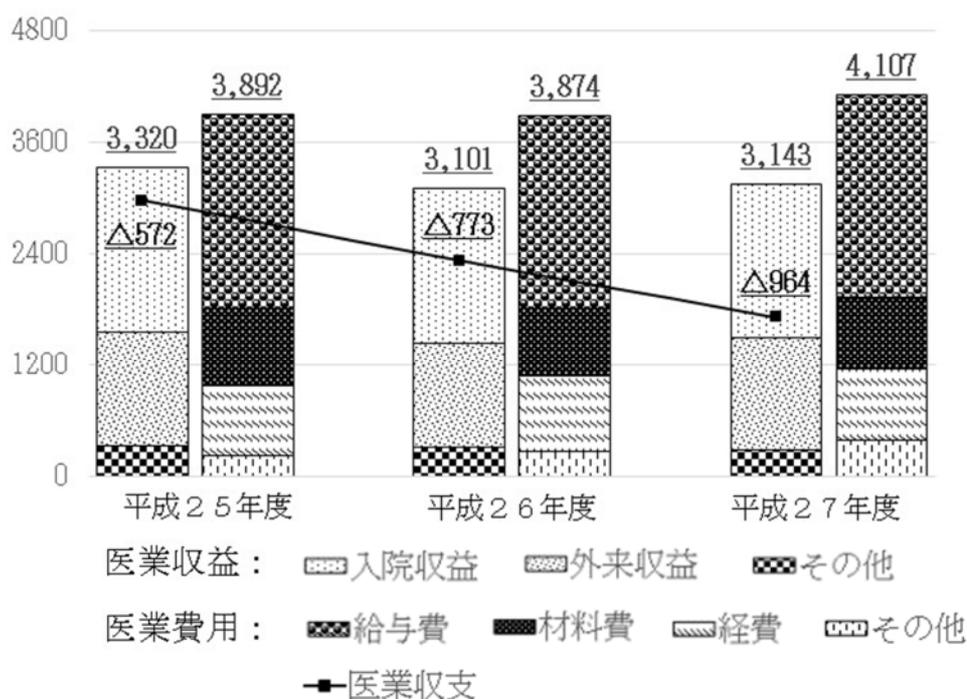
エ 経営の状況

当院の平成 25 年度から 3 か年の収支状況の推移をみると、医業収益は入院収益の減少により 1 億 7700 万円の減となり、医業費用は給与費や減価償却費の増加により 2 億 1500 万円の増となったため、平成 27 年度の医業収支は 9 億 6400 万円の減収となりました。

◆経営状況の推移（平成 25 年度～27 年度）

単位：百万円，%

	平成 25 年度		平成 26 年度		平成 27 年度	
病院事業収益	4,342	130.8%	4,285	138.2%	4,304	136.9%
医業収益	3,320	100.0%	3,101	100.0%	3,143	100.0%
入院収益	1,769	53.3%	1,662	53.6%	1,651	52.5%
外来収益	1,228	37.0%	1,133	36.5%	1,212	38.6%
その他医業収益	323	9.7%	306	9.9%	280	8.9%
病院事業費用	4,468	134.6%	4,647	149.9%	4,734	150.6%
医業費用	3,892	117.2%	3,874	124.9%	4,107	130.7%
給与費	2,078	62.6%	2,065	66.6%	2,182	69.4%
材料費	835	25.2%	728	23.5%	776	24.7%
経費他	761	22.9%	806	26.0%	761	24.2%
減価償却費他	218	6.6%	275	8.9%	388	12.3%
医業収支	△572	△17.2%	△773	△24.9%	△964	△30.7%
病院事業収支	△126	△3.8%	△362	△11.7%	△430	△13.7%



平成 27 年度の経営状況を 100 床当たりで換算し、近隣公立病院との比較を行いました。

当院の医業収益は、100 床当たり約 18 億円で、公立森町病院・菊川市立総合病院とほぼ同じ実績、中東遠総合医療センター・磐田市立総合病院は約 29 億円の実績で、規模の大きな病院の診療報酬が有利な状況となっています。医業費用については、約 24 億円の実績で、公立森町病院、菊川市立総合病院は約 20 億円、中東遠総合医療センター・磐田市立総合病院は約 30 億円の実績でした。

医業収益との比較では、給与費、材料費、減価償却費が高くなっており、医業費用は医業収益の 1.3 倍という実績でした。

◆100 床当たりの経営状況の比較（平成 27 年度）

単位：百万円

	当院	公立森町病院	菊川市立 総合病院	中東遠総合 医療センター	磐田市立 総合病院
稼働病床数（床）	174	131	260	500	500
病院事業収益	2,473	2,121	2,040	3,070	3,049
医業収益	1,806	1,791	1,776	2,892	2,896
入院収益	949	1,143	1,163	1,889	1,937
外来収益	696	552	456	794	799
その他収益	161	96	157	209	160
病院事業費用	2,721	2,249	2,085	3,190	3,130
医業費用	2,360	2,120	1,945	3,040	2,945
給与費	1,254	1,324	1,168	1,592	1,607
材料費	446	202	294	642	597
経費他	437	451	358	468	519
減価償却費他	223	143	125	338	222
医業収支	△554	△329	△169	△148	△49
病院事業収支	△248	△128	△45	△120	△81

◆医業収益 100 対比率の経営状況の比較（平成 27 年度）

単位：%

	当院	公立森町病院	菊川市立 総合病院	中東遠総合 医療センター	磐田市立 総合病院
医業収益	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
医業費用	130.7	118.4	109.5	105.1	101.7
給与費	69.4	73.9	65.7	55.0	55.5
材料費	24.8	11.3	16.6	22.2	20.6
経費他	24.2	25.2	20.2	16.2	17.9
減価償却費他	12.3	8.0	7.0	11.7	7.7
医業収支	△30.7	△18.4	△9.5	△5.1	△1.7

入院・外来診療単価、病床利用率、外来患者数を近隣公立病院と比較しました。

当院の一般病床の診療単価は、42,410 円の実績で、診療単価は病床規模が大きくなるに従い高くなる傾向となっています。回復期は、近隣公立病院より上位ランクの施設基準を取得しているため 33,595 円とやや高い実績となっています。また、当院は診療単価の低い療養病床の構成比が高いため、入院診療単価の計では 31,228 円と低い実績となっています。

病床利用率については、医師不足により一般病床が 73.1%と近隣公立病院と比べ低い状況となっています。

外来診療単価は、19,630 円と近隣公立病院で一番高い実績でした。これは、診療単価の高いリウマチ科(64,957 円)、透析科(32,504 円)の構成比が高いため、この 2 科を除いた診療単価は 11,893 円の実績でした。

外来患者数は、100 床当たり一日患者数で比較すると、当院は 146 人の実績で、中小病院は約 200 人、大病院は約 250 人という実績でした。

◆診療単価・病床利用率・外来患者数近隣公立病院との比較（平成 27 年度）

	当院	A病院	B病院	C病院	D病院
稼働病床数（床）	174	131	260	500	500
入院診療単価（円）	31,228	34,647	41,960	59,631	59,051
一般病床	42,410	35,520	48,684	59,631	59,051
回復期リハ	33,595	32,726	31,453		
療養病床	18,647				
精神病床			23,998		
病床利用率（%）	83.0	90.2	75.5	85.6	90.4
一般病床	73.1	87.4	82.5	85.6	90.4
回復期リハ	86.5	97.3	77.0		
療養病床	90.2				
精神病床			55.2		
平均在院日数（日）	43.2	24.7	19.8	10.2	13.4
一般病床	16.9	16.7	14.9	10.2	13.4
回復期リハ	95.0	58.2	63.2		
療養病床	181.7				
精神病床			56.9		
外来診療単価（円）	19,630	8,512	9,086	12,852	14,273
外来患者数/1日-100床（人）	146	203	206	257	242

④ 市立御前崎総合病院の課題

ア 地域に密着した医療サービスの継続的提供

今後、地域に即した専門的な医療・介護ニーズが更に高まる中で、市民が安心して生活が送れるよう、医療資源を有効に活用し、より質の高い医療提供体制を継続的に提供するため、今まで行ってきた医療機能の分化、院内外における様々な連携体制を継続・強化することが求められます。地域づくりとしての専門的医療・介護の提供ができる地域に密着した病院として、住民が求める医療サービスの提供が必要です。少子高齢化・人口減少が進む御前崎市において、継続したサービス提供が当院に求められます。

イ 増大する在宅医療・在宅療養ニーズへの対応、診療機能の強化

静岡県地域医療構想では、平成25年度の在宅医療供給量と比較して、平成37年度における在宅医療必要量が約1.5倍となっています。高齢の単身世帯や夫婦のみ世帯が増加していくことも踏まえ、医療と介護の連携や在宅医療を強化することや、高齢者の救急や急変時対応等、また、入院早期からの在宅復帰支援・在宅療養支援等も含めた診療機能の強化を進めていくことが求められます。

ウ 高齢者医療への対応

今後、高齢者人口の増加と、合わせて、要介護度3以上の介護依存度の高い市民が増加することを踏まえ、高齢者への医療対応の充実を図るためには、地域の診療所の先生方や介護事業者等との役割分担・連携を更に強化することが必要です。当院の切れ目ない医療・介護サービス機能を十分に発揮し、高齢者に暖かな医療を提供できるよう、診療体制・相談体制の充実が求められます。

エ 災害に強い町づくりへの貢献

近いうちに発生することが想定されている東海地震や、原子力発電所立地市としての初期被ばく、国道150号などでの大規模交通事故等に備え、医療救護拠点としての診療体制の整備が求められます。また、災害による被害を少しでも減らすためには、平時からの準備が必要になります。様々な災害に対する訓練を継続実施すること、必要物資の備蓄や災害発生時の対応マニュアルの見直し、災害による被害を最小にするための取り組みとして市民への研修実施等、事前から事後まで対応できる対策の強化が求められます。

オ 医師不足及び稼働率低下による収入減

平成16年4月の新医師臨床研修制度の導入以降、大学等関係機関への訪問、医師紹介業者への紹介依頼、各種媒体での公募、待遇等の見直し、市内への開業支援、奨学資金貸与等、様々な方策で医師招聘対策を行ってきましたが、現在もなお医師が充足していない状況です。また、医師数の減少に比例した稼働率の低下と収入減少もみられることから、今後も継続し更に拡充した医師招聘対策が求められます。

カ 医療と経営管理（マネジメント）双方の質の向上と人材育成

地域において永続的に良質な医療を提供するためには安定した病院経営が必要ですが、生産年齢の人口減少により、働き手である医療従事者の確保が一層難しくなることが予測されます。限られた人員で地域ニーズに応える必要があるため、ますますマネジメントの質の向上が求められます。

キ 平成 30 年度における医療・介護報酬改定への対応

平成 30 年度に行われる医療・介護報酬同時改定において、国が描く「急性期機能の減少と、回復期機能の増加」「在宅における介護」に向けて大きくシフトすることが推測されます。地域の実情や市民のニーズ、身の丈にあった事業展開等を考え、制度改正に柔軟に対応できるよう準備を進めていくことが求められます。

ク 御前崎市における働く場所の確保

平成 28 年 7 月現在、当院で働く職員数(医師を除く)は、常勤職員 299 人、非常勤職員 35 人と、委託業務等の職員 111 人を合わせると 445 人となっており、当院は地域における、大きな雇用の場となっています。また、住所地別に見てみると、御前崎市 233 人(52%)、掛川市 79 人(17%)、菊川市 49 人(11%)、牧之原市 42 人(9%)となっています。働く場所の確保は当市の重点課題であり、今後も、当院は安定した雇用確保の場となることが求められています。

【2. 今後の方針】

① 地域において今後担うべき役割

ア 地域に密着した医療を提供する病院

御前崎市の全域と掛川市・牧之原市・菊川市の一部から構成される診療圏域に唯一の病院であり、地域の医療ニーズに対応した医療機能の確保・維持に努め、暖かな医療・信頼される質の高い医療を提供します。

当院においては、高齢化社会を明るくハツラツと生きるための予防医療をはじめ、救急医療や不採算医療の提供、近隣病院・高度急性期病院等との連携、地域の診療所や介護事業者等との連携、在宅看護・在宅医療の提供や在宅介護との連携等、予防医療から急性期、回復期、慢性期、終末期や在宅療養までを含めた包括的な医療機能を継続・安定的に提供する地域に密着した病院としての役割を担います。また、(仮称)御前崎市家庭医療センターの整備を進め、浜松医科大学医学部附属病院と連携し、研修医や医学生実習の教育体制の確立を図り、合わせて地域医療を担う医師を確保します。

イ 高齢者に暖かな医療を提供する病院

御前崎市の高齢化率は、平成 37 年(2025 年)に 31.9%、平成 52 年(2040 年)には 36.8%と高齢化が進展します。当院に併設する総合保健福祉センターを中心に介護・福祉の拠点施設として、長期間の療養や介護を必要とする市民のために、急性期から在宅看護、在宅医療までの切れ目のない体制を構築し、お年寄りにやさしい医療・介護を提供します。

また、できる限り住み慣れた家庭や地域で、療養しながら生活を送ることができるよう、介護事業者等との連携強化にも取り組みます。

ウ 救急医療体制が充実した病院

安心・安全で住みやすいまちにするためには、救急医療体制の確保は極めて重要であり、近隣の診療所や医師会等の初期救急医療機関との協力体制の整備、近隣病院や三次救急医療機関と機能分担し連携を強化した広域救急医療体制を構築します。

今後増加が見込まれる高齢者の救急や在宅療養患者の急変時対応等の受け入れ体制の強化に継続して取り組みます。

また、救急に関する知識・技術の啓発活動、院外における救急蘇生技術啓発活動を行うことで、インフォーマルな助け合い「互助」の重要性を互いに確認するため、地域支援の活動にも積極的に取り組みます。

エ 災害に強い医療体制が確立した病院

平成 23 年 3 月に発生した東日本大震災は、地震による直接的な災害だけではなく、津波被害や原子力発電所事故等、間接的な災害について新たな課題を投げかけました。また、東海地震等の災害、原子力発電所立地市として初期被ばく医療機関

の体制、国道 150 号などでの大規模交通事故等、有事の際の医療救護拠点としての受入れ体制を再検討して、大規模災害発生時に向けた災害に強い医療体制を確立します。

行政等の関係機関と相互連携を深めて、情報伝達体制・災害時医療体制・ライフラインの確保、広域避難体制等の対策の強化充実を図ります。

② 今後持つべき病床機能

将来に向けて当院が地域で担う病床機能については、引き続き「地域に密着した病院」として、多様化・複雑化する市民の医療ニーズに的確に対応するための病床機能を確保します。

病床機能としては、「急性期」「回復期」「慢性期」の 3 つの病床機能を保有し、誤嚥性肺炎、心不全、脳卒中などの高齢者に多い疾患の急性期対応から、リハビリを中心とした在宅復帰支援や、医療必要度の高い長期療養患者への対応等、その役割は広範囲にわたると考えます。中重度の要介護認定者については、併設の老人保健施設との連携により継続して対応します。

【3. 具体的な計画】

① 4機能ごとの病床のあり方について

〈今後の方針〉

	現 在 (平成 29 年度病床機能報告)		将 来 (2025 年度)
高度急性期	0 床	→	0 床
急 性 期	85 床		85 床
回 復 期	60 床		60 床
慢 性 期	54 床		54 床
(合 計)	199 床		199 床

当院は、開院から 30 年が経過し、施設そのものの老朽化が進んでいることや、医療安全、感染制御、患者のプライバシー保護やアメニティなど、現在の医療機能へ対応した設備が不足しているなど、長期的には病院建物の建替えを検討する必要があります。

将来的に高齢者数自体も減少に転じることを踏まえると、規模や機能を含め、建替えの際には、近隣の公立病院の状況も踏まえた、当院のあり方を見直す必要があります。

② 診療科の見直しについて

今後も、地域に密着した病院としての役割を果たすため、診療科については、現状を維持します。

③ その他の数値目標について

項目	単位	目 標			
		H30	H32	H35	H37
病床利用率 (対稼働病床)	%/年	85.7	84.8	88.1	89.1
入院患者数	人/日	161.2	168.8	175.4	177.3
外来患者数	人/日	292.4	345.1	359.8	365.5
紹介率	%/年	28.0	28.0	28.0	28.0
給与費対医業収益比率	%/年	66.6	61.3	61.4	61.4
経費対医業収益比率	%/年	20.4	18.1	18.1	18.2
材料費対医業収益比率	%/年	23.7	24.2	24.3	24.4
減価償却費対医業収益比率	%/年	11.7	13.6	13.5	13.4